

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ウマヅラハギ

学名 *Thamnaconus modestus*

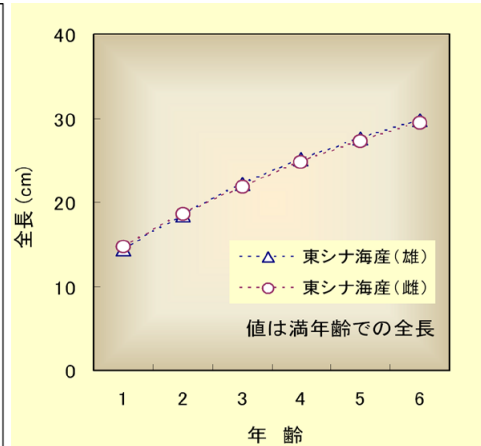
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳程度
成熟開始年齢: 雌は2歳(56%)、3歳(53%)、4歳以上(90~100%)、雄は不明
産卵期・産卵場: 4~6月、魚釣島周辺海域、日本・中国・韓国の沿岸
索餌期・索餌場: 8月~翌3月、東シナ海・日本海の沖合域、日本・中国・韓国の沿岸
食性: カイアシ類、貝類、エビ・カニ類、魚類、ヨコエビ類、ウニ類、ヒトデ類、ヒドロ虫類、珪藻類、紅藻類
捕食者: 不明

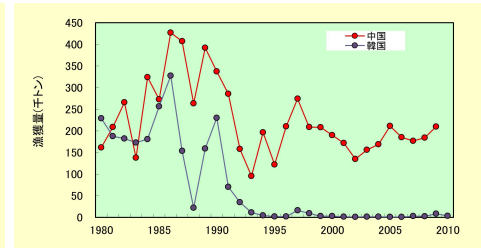
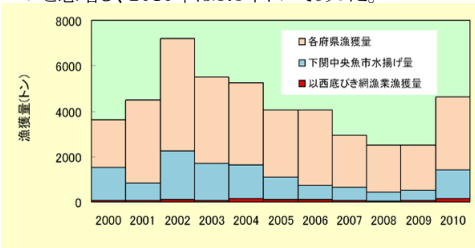


漁業の特徴

主に我が国の沿岸域で定置網、底びき網、刺網等によって漁獲される。

漁獲の動向

近年の我が国のウマヅラハギ漁獲量は減少傾向にあり、2009年には2.5千トンまで減少したが、2010年は増加して4.6千トンであった。中国と韓国のカワハギ類の漁獲量は最盛期(1986年)にはそれぞれ43万トン、33万トンであったが、その後、中国では20万トン前後、韓国では1千~3千トンまで減少した。近年の韓国の漁獲量は2009年に8.3千トンと急増し、2010年は3.5千トンであった。



資源評価法

漁獲量の情報を収集し、経年変動傾向を検討した。石川県における漁獲量および無作為サンプリングにおける体長組成を参考にした。また東シナ海陸棚縁辺域の広域において5~6月に着底トロールによる漁獲試験を行い、現存量を推定した(1998~2011年)。

資源状態

我が国における本種漁獲量の長期変動は明らかでないが、東シナ海・日本海における中国と韓国のカワハギ類(主にウマヅラハギ)の漁獲量の推移より、1990年代以降は低水準と考えられる。2010年は、我が国の水揚げ量、石川県の水揚げ量および着底トロール調査による現存量推定値のいずれも前年より増加したが、最近5年間の推移でみると横ばいである。また、中国と韓国の最近5年間の漁獲量も横ばいである。したがって、資源水準は低位、動向は横ばいと判断した。



管理方策

資源水準が低位であり、動向が横ばいであることから、漁獲量を削減することが望ましい。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	26百トン	0.8Cave3-yr	—	—
ABCTarget	21百トン	0.8・0.8Cave3-yr	—	—

資源評価のまとめ

- 中国、韓国の漁獲量の推移から、水準は低位
- 韓国、中国、我が国の漁獲量の推移および着底トロール調査の現存量推定値から、動向は横ばい

管理方策のまとめ

- 資源全体としては漁獲量を削減することが望ましい

資源評価は毎年更新されます。